

道徳だより



矢板市立片岡小学校

卒業式まで、10日余りとなりました。今まで慣れ親しんできた友達、先生方との別れを前に、さみしい気持ちもあれば、新しく始まる中学校生活に期待をふくらませていきます。卒業前の6年生の気持ちは、常に揺れ動いています。

さて、2月24日（水）6年生を送る会が行われました。5年生と4年生の実行委員を中心に、計画されたことが実行されました。入学式では6年生に手を引かれた1年生が、6年生の手を引いて入場する役を果たしました。2年生は、一人一人が描いたイラストを添えた招待状を6年生に贈りました。3年生と4年生は、それぞれ100個の紙花と、プログラムを作りました。それらを用いて、5年生が会場を準備しました。6年生は、なかよし班の仲間と校内ウォークラリーを楽しんだり、なかよし班の仲間からもらった手紙を読みふけったりしていました。

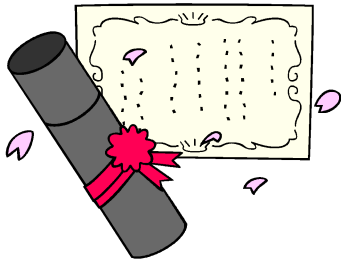
全校生がこのひとときを存分に楽しみ、別れを惜しむことができたのは、各学年の子供たちが与えられた役割を責任をもって果たしたからです。次の年度に向けて、6年生からバトンを受け取った5年生を中心に、より良い校風を求めて、みんなで力を合わせていきたいものです。



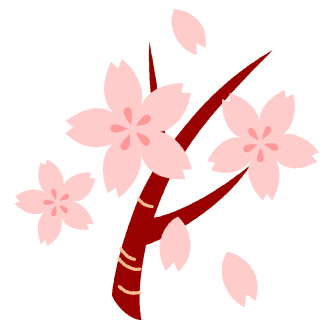
○6年生を送る会後の振り返りカードから・・・

最高学年として準備をしながら考えたことは、どうしたら6年生が喜んでくれるかということでした。当日、班の6年生みんなが笑っていて、準備をがんばって良かったなと思いました。

今の6年生はすごいなと思いました。理由は、進んで手伝っていたり、やることをちゃんとやっていたりしたからです。ぼくも、最高学年として、今の6年生みたいになりたいと思いました。



6年生を送る会の準備や片付けをして、私は、この仕事をして良かったと思いました。みんなが、「すごいね」「がんばったね」など、いろいろほめてくれたからです。



1年生から6年生までが楽しめるように、一生けん命かざりを付けました。当日は、楽しんでくれているかなとずっと考えていました。いよいよ6年生になるんだと思いました。

司会をやっていて、私たちににとっては、ふつうに話していても、1年生にはどうすればいいのかわからない人が多かったです。低学年に合わせることも大切だなと思いました。

「私たちの道徳 小学校5・6年」から・・・

どのような役割でも、その役割がなければ成り立たない

例えば、学芸会の演劇で、演じる人と同じように輝いているのは、舞台に向けて照明を当てるAさんであり、音楽をタイミングよく流すBさん。

だれか一人でもいなければ、この劇は成り立たない。

